SDGsを通じた洞爺湖有珠山ジオパークの再評価と利用促進のための戦略

洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会　加賀谷にれ、武川正人、畑吉晃、中谷麻美、大楽泰生

1）洞爺湖有珠山地域の特徴と活動の価値

国際的に価値のある地球科学的遺産：

・人の生活圏で噴火を繰り返す活火山「有珠山」、巨大な火砕流噴火で誕生したカルデラ湖「洞爺湖」、その中心の「中島溶岩ドーム群」等が密集している地域であること。

関連資産：

・活火山の近くで暮らすために、災害リスクの軽減を目指す**減災教育活動（減災文化）**

・繰り返す噴火の影響を受けた独自の**生態系（植生）**

・火山の側で暮らした**縄文文化期の遺跡群**と**アイヌ民族の文化**

特に、地域住民が主体となった次の噴火災害に備えた地域づくり“減災文化”と、火山が作りだした雄大な景観や温泉など“火山の恵み”も、当地域が誇る特徴。

2）洞爺湖有珠山ジオパークの活動に関連するSDGsの項目

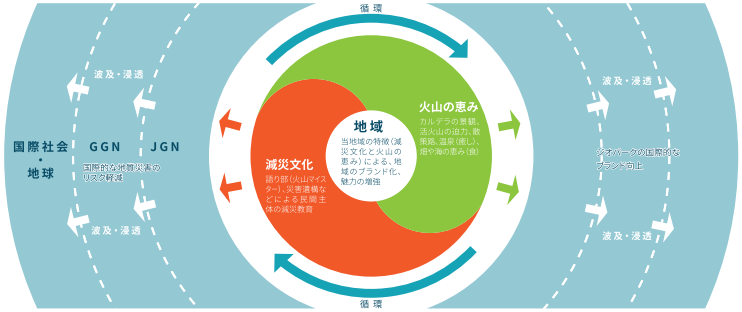
<SDGs ICAP>
SDGs ICAPは、SDGsに対する企業・団体・自治体などの取組を支援するUNDPの国内プロジェクトです。2015年からSDGsの17の目標（ゴール）と169のターゲットを共有し、国内外の様々な分野で活動する企業・団体・自治体・市民・政府・国連機関などが、SDGsを通じてパートナーシップを組むことを目的として、SDGsの目標に向けた行動を加速することを目的としています。

3）持続可能な開発のための活動ポリシー　（世界のメリット、地域のメリット）

当ジオパークでは「減災文化」と「火山の恵み」を生かした持続可能な開発ポリシーを以下のように設定する。

●洞爺湖有珠山ジオパークは、「減災文化」で災害を軽減し、「火山の恵み」で地域の価値を増幅することで、持続可能な地域社会を実現します。

●洞爺湖有珠山ジオパークは、「減災文化」のノウハウを世界ジオパークネットワークの環を通じて普及することにより、国際的な地質災害のリスク軽減に貢献します。また、「火山の恵み」の普及と、多様な楽しみ方を提供する持続可能なツーリズムの推進を通して、ジオパークの国際的なブランド向上と持続可能な国際社会を実現します。



※このポリシーは、「すべての国や地域に進展をもたらすウィンウィンの協力と地球規模の開発を進める（持続可能な開発のための2030アジェンダ）」に協調したもの。

4）SDGsの普及・活用戦略

① ツーリズムプロモーションにおけるSDGs活用

SDGs認知度調査

（%）

	第1回調査 2018年2月		第2回調査 2019年2月
調査対象全体	14.8	→	16.0
※学生全体	13.4	→	24.8
中学生	5.9	→	29.6
高校生	15.7	→	24.8
大学生	15.0	→	27.5

※学生全体…中学生・高校生・専門・高専・大学・大学院を含む

第2回電通SDGs生活者調査（2019/05/16発表）

現在、学校教育や企業研修などで、急速にSDGsを取り入れ活動が拡がっている。特に学校では、2018年以降、SDGsの認知度が倍になっている。

今後の戦略として・・・

教育旅行や企業研修誘致に効果的な、SDGs対応プログラムのチラシを作成、プロモーションに活用

② 世界ジオパークのネットワークを活用した災害に強い国際社会への貢献

海外における普及活動

災害遺構の活用と、減災リーダーである火山マイスターの認定などを軸とした減災文化モデルをUGGp国際会議、APGN大会等で、当地域の減災教育プログラムの有効性を繰り返し発表。

今後の戦略として・・・

GGN、APGNのDRR(減災)ワーキングと連携したより効果的な普及活動を実施

視察、研修員への普及活動

視察やJICA研修員等に向けた、減災文化と火山の恵みの活用を含む研修プログラムを提供。これまで14グループ、37カ国、165名の参加者に実施。

今後の戦略として・・・

地域の学校やガイドを交えた、減災文化交流事業として活動を発展

「普遍性」「統合性」「変革性」

「我々の世界を変革する～持続可能な開発のための2030アジェンダ（Transforming our world：the 2030 Agenda for Sustanable Development）」では、SDGsの各項目は普遍的、統合的、かつ相互に関連するべきものであり、世界に変革をもたらすべきものでることが強調されている。

「どの項目に貢献できる」と当てはめるだけでは、SDGsとは言えない

社会を変革する覚悟と、具体的な挑戦が必要 ・・・とのことです。